

# 令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール



すだちの収穫(実習)



防除について(座学)



キウイの収穫(実習)



みかんの剪定(実習)

実施期間 令和3年9月22日(水)～令和4年3月14日(月)  
講義回数 10回  
受講生 11名  
修了者 7名(8割以上出席者)

## 佐那河内果樹アグリスクール実施計画書

### 1. 目的

本会は佐那河内果樹アグリスクールと称し、果樹生産者に対し、栽培技術の向上や栽培技術の継承を目的とする。

### 2. 概要

受講生を募集し、1年を通して果樹の栽培技術講習会を行う。講師は村内外から選任し、座学及び現地研修で栽培技術の習得を目指す。

### 3. 受講要件

- (1) 村内に在住もしくは村内に耕作園地のある者。
- (2) 村内で就農を目指す者。
- (3) 佐那河内村に関わりの無い者(村外在住・園地無し・村内での就農予定無し)については、資料代等として5,000円を負担できる者。
- (4) (1)(3)の場合は、世帯内で果樹の出荷実績のある者。

### 4. 講習概要

みかん・すだち・キウイを中心に果樹における栽培技術講習会を開催する。講習会は1ヶ月1回程度、年間10回程度とする。(初年度は5回程度)

年間カリキュラムについては、農業振興協議会・農業指導班会などに意見を聞きながら作成する。

受講生は公募とし、定員は約20名とする。1回1単位の単位制とし、8割(小数点以下切り捨て)以上取得した受講生には修了証書を交付する。また、修了後の再受講は妨げない。

### 5. 実施主体及び体制

実施主体は佐那河内村とし、校長に村長、産業環境課に事務局を置く。

### 6. 講師

講師は佐那河内村内外の農家及び有識者を校長が選任する。

### 7. 講師謝金

村内講師の謝金は1回(午前もしくは午後を1回とする。)あたり5千円とする。

村外講師については、講師との協議により決定する。

### 計画実施

平成29年 8月31日

平成30年 4月18日 変更

受講要件 村内で就農を目指す者。を追加

平成30年 6月 5日 変更

受講要件 佐那河内村に関わりの無い者(村外在住・園地無し・村内での就農予定無し)については、資料代等として5,000円を負担できる者。を追加

令和2年 7月20日 変更

受講要件 (1)(3)の場合は、世帯内で果樹の出荷実績のある者。を追加

## 令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール日程表

回数	開催日 場 所	主な内容			
		午前 (10:00~12:00)	講師	午後 (13:00~15:00)	講師
第1回	9月22日(水) 農振センター 村内園地	開校式(9:00~)		すだちの収穫(実習)	大仲
		果樹の総論と経営について (座学)	支援C 亀代		
第2回	10月12日(火) 役場3階ホール	すだちの栽培について (座学)	技術 支援C 津村	防除について(座学)	技術 支援C 中西
第3回	10月26日(火) 役場3階ホール	施肥と灌水について(座学)	技術 支援C 新居	ゆずの栽培について(座学)	技術 支援C 山本
第4回	11月2日(火) 役場3階ホール 村内園地	キウイの栽培について (座学)	支援C 新居	キウイの収穫・貯蔵(実習)	市原
第5回	11月30日(火) 役場3階ホール	流通と市場について(座学) 11:00~12:00	全農 二木	みかんの収穫・貯蔵管理に ついて(座学)	西岡
第6回	12月27日(月) 役場3階ホール 村内園地	果樹栽培暦のポイントにつ いて(座学)	J A 長谷部	キウイの剪定(実習) 13:00~15:30	市原
第7回	2月18日(金) 農振センター	もうかるすだち作りにつ いて(座学)	大仲	土づくりについて(実習)	支援C 廣瀬
第8回	2月25日(金) 旧果樹研究所 (勝浦町)	みかんの剪定(実習)10:00~14:00 徳島かんきつアカデミーと合同			技術 支援C 安宅
第9回	3月3日(木) 農振センター 村内園地	鳥獣害対策について(座学)	役場 安富	すだちの剪定(実習) 13:00~15:30	J A 長谷部
第10回	3月14日(月) 村内園地 農振センター	常緑果樹の苗木植え付け (実習)	技術 支援C 山本	接ぎ木について(実習)	西岡
				修了式(15:00~)	

令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール講師名簿(敬称略)

No.	所 属	講師氏名	内容
1	農林水産総合技術支援センター 農業大学校(勝浦)	安宅 雅和	みかんの剪定
2	農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課	中西 友章	防除について
3	農林水産総合技術支援センター 高度技術支援課	山本 浩史	ゆずの栽培について 常緑果樹の苗木植え付け
4	農林水産総合技術支援センター 農産園芸研究課	津村 哲宏	すだちの栽培について
5	農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課	新居 美香	施肥と灌水について
6	東部農林水産局<徳島>農業支援第一 担当(徳島農業支援センター)	亀代 美香	果樹の総論と経営について
8	東部農林水産局<徳島>徳島ブランド 推進担当(徳島農業支援センター)	新居 里菜	キウイの栽培について
7	東部農林水産局<徳島>農業支援第一 担当(徳島農業支援センター)	廣瀬 雄作	土づくりについて
9	全農とくしま 園芸部	二木 伸一	流通と市場について
10	徳島市農協 南部営農経済センター	長谷部 秀明	果樹栽培暦のポイントについて すだちの剪定
11	農 家	市原 善文	キウイの収穫・貯蔵 キウイの剪定
12	農 家	大仲 保	すだちの収穫 もうかるすだち作りについて
13	農 家	西岡 優	みかんの収穫・貯蔵管理について 接ぎ木について
14	佐那河内村役場 産業環境課	安富 圭司	鳥獣害対策について

令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール参加者名簿

番号	氏名	住所	募集対象	年齢
1	A	吉野川市	担い手	69
2	B	神山町	担い手	70
3	C	徳島市	新規就農者	72
4	D	松茂町	新規就農者	57
5	E	徳島市	新規就農者	66
6	F	徳島市	新規就農者	56
7	G	佐那河内村	担い手	61
8	H	佐那河内村	担い手	66
9	I	徳島市	新規就農者	54
10	J	那賀町	担い手	67
11	K	吉野川市	担い手	61

## 令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール 実績

佐那河内村では、平成29年度より果樹の栽培技術の向上と継承を目的に、『佐那河内果樹アグリスクール』を開校しています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開校が9月になり、募集人員を減らしての実施となりました。今年度は11名の参加があり、7名が修了しました。

- 令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール開校式  
日時：令和3年9月22日(水) 9:00～  
場所：佐那河内村農業総合振興センター 1階会議室



●第1回講義【午前の部】「果樹の総論と経営について」（座学）

日時：令和3年9月22日（水）10:00～12:00

場所：佐那河内村農業総合振興センター1階会議室

講師：徳島農業支援センター 徳島支援第一担当 亀代 美香さん

参加人数：9名

内容：はじめに、常緑果樹と落葉果樹それぞれの特性のお話がありました。果樹は永年性作物であり、気象に左右され、年間の内、果樹にとって不都合な時期があれば適地とは言えないため、果樹栽培は適地適作が大前提であるとのことでした。また、花芽分化とCN率や生理落下など、果樹の特性についてお話がありました。経営については、単一経営と複合経営の違いや、みかんやすだち、キウイの栽培にかかる労働時間、樹種による結果開始期や成果期間、古木の改植方法の種類など詳しくお話をしていただきました。



●第1回講義【午後の部】「すだちの収穫」(実習)

日時：令和3年9月22日(木)13:00~15:00

場所：佐那河内村農業総合振興センター1階会議室及び柏木さん園地

講師：大仲 保さん

参加人数：9名

内容：初めに、農業総合振興センターですだちの階級や大きさのお話があり、2Lで標準40個、1本の木で20Kgなっているとして、800個の収穫が必要であること、ハサミはやすりで研いで切れ味の良いはさみを使うことなど、すだち収穫に向けたお話を聞いた後、柏木さんの園地で収穫の実習を行いました。皆さん手際よく、多くのすだちを収穫することができました。大雨になったため、全部は採りきれんせんでしたが、講師の大仲さん、園地を貸していただきました柏木さん、ありがとうございました。また、雨の中ご参加いただきました受講生のみなさん、お疲れさまでした。





●第2回講義【午前の部】「すだちの栽培について」（座学）

日時：令和3年10月12日（火）10：00～12：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：徳島県立農林水産総合技術センター 農産園芸研究課 津村哲宏さん

参加人数：11名

内容：すだちには、耐寒性が比較的強く（マイナス5℃以上）、かいよう病に弱い、果実への食害が多い、果実の緑色の保持対策が重要であるなどの特性があり、健全な樹を維持するために、植栽から摘果・摘葉、収穫、貯蔵といった一年間を通じた管理方法の説明がありました。緑色の濃い果実を維持するために、貯蔵の方法が重要となり、収穫果実は丁寧に扱うこと、予措（水分を減らす）を行うこと、適切に袋詰めを行うこと、貯蔵の際の細かい温度管理が大切だということでした。また1年間を通して、時期に合った防除作業が必要であり、すだちにつきやすい虫とその被害、それに対する対策等について説明がありました。



●第2回講義【午後の部】「病虫害防除について」（座学）

日時：令和3年10月12日（火）13：00～15：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：徳島県立農林水産総合技術支援センター

資源環境研究課兼病虫害防除所 中西友章さん

参加人数：11名 四国大学人間健康化食物栄養専攻 学生8名 教員1名

内容：病原菌や害虫にとって「作物」は、人によって作られた品種・耕地・環境で人に守られながら育っており、格好の条件となっています。カンキツ類が影響を受けやすい病虫害には大きく分けて、糸状菌（カビ）、細菌（バクテリア）、ウイルスの3種類があり、すだちへの影響が多い「かいよう病」は、細菌の一種であり、前年の秋から初冬に形成された病斑が伝染源となって傷口から広がっていきます。防除には、予防が大事であり、台風などの暴風雨やハモグリガなどの食害に注意すること、銅水和剤、ボルドー剤等の予防散布が必要であるとのことでした。防除対策は、ほ場、気候、年によっても異なってくるため、ほ場や症状をしっかりと観察し、病気や虫の生態や特徴を知り分析を行い、薬剤・天敵対策等を行うという流れを続けていくことが必要であるということでした。



●第3回講義【午前の部】「土と肥料のお話」(座学)

日時：令和3年10月26日(火)10：00～12：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：徳島県立農林水産総合技術支援センター  
資源環境研究課 新居美香さん

参加人数：11名

内容：作物から見たいい土壌の条件には、①物理性（厚くやわらかな土層があり、適度な保水性・排水性がある）②化学性（作物に必要な養分を適度に含み、土壌pHが適切な範囲にある）③生物性（土壌有機物を適度に含み、土壌微生物の活性が高い）などが大きく関与しています。施肥を行う際には、①肥料の形態、②施肥時期、③施肥量、④施肥位置が重要で、目標収量、肥料成分の利用効率、堆肥などからの供給量、土壌および天然供給量等を考慮して決める必要があります。そのためにも、定期的な土壌診断を行い土壌の状態を知り、それに合わせた肥料を与えることが重要だということでした。最後にカンキツ類の要素欠乏生理障害の症状と対策についての説明と、支援センターで行われている研究についての発表がありました。



●第3回講義【午後の部】「ユズの栽培について」（座学）

日時：令和3年10月26日（火）13：00～15：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：徳島県立農林水産総合技術支援センター 高度技術支援課 山本浩史さん

参加人数：11名 四国大学人間健康化食物栄養専攻 学生3名 教員1名

内容：ゆずの来歴や特徴から、管理方法、施肥、収穫・予措・貯蔵までの一連の流れなど詳しい説明がありました。また、みかん、すだち、ゆずの未熟果を実際に見比べながら、果頂部の乳頭が突出しており、果面が粗く油胞の凹凸が激しいなどの特徴の説明がありました。ゆずは、カンキツ類の中で最も耐寒性が強く、降水量が多く、弱酸性（pH6～6.5）の土壌が栽培に適しています。着果率は5%前後で有葉花の方が直花に比べて、着果率が高く大きい実ができやすいことから、有葉花で作っていくのがゆずのポイントだということでした。また、果皮が綺麗な鮮黄色で香気高く、果汁が多いものが好まれるため、品種の選定や収穫時期や予措・貯蔵管理とこはん症への対策が重要だということでした。



●第4回講義【午前の部】「キウイフルーツの栽培について」（座学）

日時：令和3年11月2日（火）10：00～12：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：徳島県農業支援センター 新居 里菜 さん

参加人数：8名

内容：キウイフルーツは、カンキツ類と異なり雌雄異株・落葉果樹であるという特徴があり、栽培に必要な果樹棚の作成等のため初期投資はかかるものの値段が安定しており、年間の作業時間がすだちやみかんと比べて短くて済む、比較的育てやすい果実であるという説明がありました。佐那河内村内にも、生産農家が多く今では徳島県下1位の出荷量を誇っています。キウイの栽培において重要なのが、剪定、環状はく皮、受粉であり、剪定については、夏と冬の2回の剪定で、結果母子・結果枝を見て果実がどこになるのかを考えながら剪定位置を決める必要があるということです。幹の環状はく皮は、花腐細菌病の予防に効果的であり、結果母子の環状はく皮はキウイの肥大促進に効果があるということです。また雌雄異株であるため、受粉を行う必要があります、人工授粉と液体受粉の2つの方法があるとのことでした。最後に、座談会の時間もあり、いろんな意見やお話を聞くことができました。



●第4回講義【午後の部】「キウイの収穫・貯蔵について」（実習）

日時：令和3年11月2日（火）13：00～15：00

場所：佐那河内村役場3階での座学及び園地での収穫実習，J A徳島市選果場見学

講師：市原 善文さん

参加人数：7名 四国大学人間健康化食物栄養専攻 学生13名 教員1名

内容：最初に、佐那河内村内におけるキウイの歴史や現状についてのお話や、貯蔵・出荷についてのお話がありました。園地では、実際に樹木や果実を見ながら、キウイの収穫方法や環状はく皮の状態などの説明がありました。実の状態や大きさを確認したりしながら、各々収穫を体験しました。最後にJ A徳島市選果場において、日開課長より、キウイの出荷の現状説明や、貯蔵庫・選果機・施設内の見学案内等をしていただきました。キウイは選果場にて、2℃に設定された冷蔵庫で貯蔵され、出荷の際には、電子秤式重量選別機に通され、大きさによって分けられます。そこからは、人の手によって丁寧に箱詰めされ出荷されるとのことでした。キウイだけでなく、すだちやみかんに使われるカメラ式品質センサーや自動計量包装機なども説明していただき、普段あまり見る機会のない、選果場の様子を見ることができました。



●第5回講義【午前の部】「流通と市場について」（座学）

日時：令和3年11月30日（火）11：00～12：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：JA全農とくしま 園芸部 部長 二木 伸一さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから3名参加

内容：開設者が国から認可を得て開設した卸売市場を中央卸売市場といい、全国には40都市64か所で開設されていますが、直接取引や直売所、ネット販売など卸売市場を経由しない取引が多くなり、昭和55年度の89か所に比べ減少しているとのことでした。eコマースによるB to Cが拡大しており、消費の姿も変わってきているとのことでした。日本の人口は今後減っていくのに対して、世界的にみると人口は増える予想であるので、輸出の拡大が重要であるとのことでした。輸出には、規制の対応が不可欠であるため、今後、国の働きかけがや輸出体制強化が求められているとのことでした。



●第5回講義【午後の部】「みかんの収穫・貯蔵について」（座学）

日時：令和3年11月30日(火)13：00～15：00

場所：佐那河内村役場3階

講師：西岡 優さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから1名参加

内容：みかんの栽培技術ポイントから防除や剪定、貯蔵など、全体的なお話がありました。みかんは、極早生(9月から10月上旬収穫)、早生(10月～12月収穫)、中生(12月収穫)、普通(12月～5月)、中晩柑(不知火など)があり、マルチ栽培など水分を調整することで、糖度が上がるとのことでした。施肥では、開花の後まで前年の肥料分を使い、春肥が効いてくるのはその後であるとのことでした。剪定では、枝の角度によって実の成る花の着き方が違うので、主枝を立て、実を成らす枝は水平に近い形で整えるのが良いとの事でした。貯蔵では、タイベックシートをかけることで貯蔵ができる商品があり、貯蔵庫を持たなくても貯蔵が可能であるとのことでした。





第6回講義【午前の部】「果樹栽培暦のポイントについて」(座学)

日時：令和3年12月27日(月)10:00~12:00

場所：佐那河内村役場3階

講師：徳島市農業協同組合 南部営農経済センター 長谷部 秀明さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから3名ご参加いただきました。

内容：まず、常緑果樹である温州みかん・すだち・ゆずと、落葉果樹であるキウイ・うめ、それぞれの生育ステージについて月毎の育ち方や作業についてお話がありました。常緑果樹は地上部が成長してから根が成長する一方で、落葉果樹は根が成長してから地上部が成長する点が最も大きな違いであり、剪定時期に注意が必要であるということでした。その後、それぞれの果樹について、栽培歴を活用しながら防除や施肥についての詳しいお話がありました。特に、薬剤の組み合わせの注意点、それぞれの時期での薬剤濃度の違いやその理由、薬剤散布の収穫前日数や回数など詳しい説明がありました。



第6回講義【午後の部】「キウイの剪定」(実習)

日時：令和3年12月27日(月)13:00～15:00

場所：大西さん園地

講師：市原 善文さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから4名ご参加いただきました。

内容：キウイの収穫実習をした大西さんの園地をお借りして、キウイの剪定の実習を行いました。初めに、講師の市原さんより強い結果母枝を残して、棚にバランスよく括りつける実演を見せていただいた後、各自指導していただきながら剪定を行いました。全体的なバランスを考えながら、効率的に剪定していくことの大切さを教えていただきました。



- 第7回講義【午前の部】【第1部】「もうかるすだち作りについて」(座学)  
当日は、雪の影響で、午後の土づくりについて、座学に変更し、午前中に前倒しした。

日時：令和4年2月18日(金)10:00~12:30

場所：佐那河内村農業総合振興センター1階会議室

参加人数：7名

徳島農業支援センターから2名ご参加いただきました。

講師：大仲 保さん

内容：はじめに、徳島県や佐那河内村ですだちの栽培が盛んになった背景や、時代とともに変化する物価や市場の流れとすだちへの影響などのお話がありました。また、すだちは果実が小さく収穫などに手間がかかる割に1玉の値段が安く、青果出荷でいかに高く販売するか、単価の安い加工すだちをいかに減らせるか、露地だけでなく冷蔵貯蔵することで高単価で周年出荷するなどの工夫が大切だということでした。経営の面では、1本の木で、30kg(約1200玉)12000円の利益が一つの目標となるなどの具体的なお話がありました。今後は、新しい感覚で、消費者の立場に立って求められる品質(例：種なしすだちや菓子用すだち)や流通経路(例：ネット販売や直売所など)を自ら見極めていくことが重要だということでした。

- 第7回講義【午前の部】【第2部】「土づくりについて」(座学)

講師：徳島県東部農林水産局 徳島農業支援センター 廣瀬雄作さん

内容：本来は現地での、土づくり実習を予定していましたが、前日の悪天候により座学での講義のみに変更させていただきました。すだちは1~2年目の成長が大切であり、植え付け1か月前の土壌改善が重要だということでした。一般的に行われているのは、局所施用と呼ばれる1苗分ずつ土づくりをしていく方法ですが、広い園地などでは園地全体への施肥後トラクターや管理機を使って耕耘する全層施用という方法もあります。また、肥料を準備する前に、土壌分析をし、その土壌に合った施肥設計をきちんとすることがとても大切だということでした。





第8回講義【午前】「みかんの剪定」(実習)

日時：令和4年2月25日(金)10:00~12:00

場所：かんきつテラス徳島(勝浦町)

講師：徳島県立農林水産総合技術センター 農業大学校 安宅 雅和さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから3名ご参加いただきました。

内容：新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、時間を短縮し、午前だけの講座となりました。最初に圃場で剪定の基本のお話を聞いた後、見本として実際に1本の木を剪定していただきました。第1亜主枝は切らないこと、太い枝と細い枝のバランスをとること、太い枝を切り、細い枝を残すことなど、剪定のコツを詳しく教えていただきました。その後、受講生全員で実際にみかんの剪定を行いました。また、場所を移動して幼木の剪定も教えていただきました。



第9回講義【午前の部】「鳥獣害対策について」（座学）

日時：令和4年3月3日（木）10:00～12:00

場所：佐那河内村農業総合振興センター1階大会議室

講師：徳島県鳥獣対策・ふるさと創造課 土井 伸一郎さん  
佐那河内村産業環境課 安富 圭司さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから3名ご参加いただきました。

内容：初めに、徳島県鳥獣対策・ふるさと創造課 土井さんより、シカについてのお話がありました。昔はいなかったシカが増えてきたという話をよく聞くが、明治より前の江戸時代には、多くのシカが生息しており、明治時代の乱獲により減った個体数が元に戻りつつあるのが実際のところであること、シカが山から里に下りてきているのではなく、元々平地を好むシカが山に追いやられていたのが帰ってきているだけであるということなど、シカの生態について詳しいお話がありました。また、猟友会も高齢化しており、捕獲数の限界がきているとのことで、今以上個体数を減らすことが困難であるとのことでした。シカから農作物を守るためには、電気柵や侵入防止柵による被害管理を行うことが一番重要であり、次にハンターによる個体数管理、続いて人工林の広葉樹林化や耕作放棄地の適正管理を行うことによる生息地管理が重要であるとのことでした。

次に、役場産業環境課の安富さんから佐那河内村が行っている鳥獣害対策のお話がありました。佐那河内村では、令和2年度にイノシシ137頭、シカ392頭、サル17頭を駆除しており、サルについては、檻の設置により、群れを一網打尽にできることから、個体数が減っているとのことでした。固定式や移動式のサル檻、モンキードッグ、テレメトリー調査、広域防護柵、カラス檻の紹介があり、捕獲後の処理として、大川原に設置している鳥獣処理施設の紹介がありました。また、遠隔監視カメラやセンサーネットワークを活用した鳥獣害対策事業の説明がありました。



第9回講義【午後の部】「すだちの剪定」(実習)

日時：令和4年3月3日(木)13:00~15:00

場所：山神果樹薬草園【松山油脂(株)】園地

講師：徳島市農業協同組合 南部営農経済センター 長谷部 秀明さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから2名のご参加をいただきました。

内容：山神果樹薬草園【松山油脂(株)】の園地をお借りして、すだちの剪定の実習を行いました。初めに、講師の長谷部さんより、剪定は主枝の上から三角形に切っていくこと、同じ年代の枝は養分が分散するので、間引いて枝を減らすことなどの説明を受けながら、1本の木で実演を見せていただいた後、講師に指導をいただきながら各自剪定を行いました。剪定が終わった後に集合し、それぞれの剪定具合の振り返りを行いました。



第10回講義【午前の部】「常緑果樹の苗木植え付けについて」(実習)

日時：令和4年3月14日(月)10:00~12:00

場所：大仲さん園地

講師：徳島県立農林水産総合技術センター 高度技術支援課 山本 浩史さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから2名ご参加いただきました。

内容：大仲さんの園地をお借りし、すだちの苗木の植え付けを行いました。苗木は、接ぎ木部分から40cmあたり(夏芽の5芽あたり)で切り返し植え付けを行うこと、根は広げて植えることなどの説明があり、講師に苗木を植え付けを見せてもらいました。その後、3人一組になり、苗木を植え付けました。また、大仲さんの園地では、マルチの被覆もしていたので、被覆の方法も教えていただきました。





第10回講義【午後の部】「接ぎ木について」(実習)

日時：令和4年3月14日(月)13:00~15:00

場所：佐那河内村農業総合振興センター前駐車場

講師：西岡 優さん

参加人数：8名

徳島農業支援センターから2名ご参加いただきました。

内容：講師から、時期は樹液が動き出してからが良いこと、芽が出るまでに穂木を採取し、冷蔵保存すること、接ぎ方は、はぎ接ぎ、芽接ぎ、腹接ぎ、切り接ぎがあることなどの説明がありました。形成層同士を接ぐことで確実に接ぎ木が成功することでした。接いだ後は芽だしテープなどで被覆し、台風やカラスに注意が必要であるとのことでした。講師の説明を聞いた後、枝を台木に見立てて、穂木の切り出しから芽出しテープでの被覆までの作業を行いました。



- 令和3年度 佐那河内果樹アグリスクール修了式  
日時：令和4年3月14日(月)15:00～  
場所：佐那河内村農業総合振興センター1階会議室  
修了者：7名

令和3年度 佐那河内果樹アグリスクールの修了式を行いました。今年度は10回の講義を行い、7名に修了証書を授与しました。校長である岩城村長および佐那河内農業振興協議会 加藤会長よりご挨拶をいただきました。

